

第7回 市民と議会のつどい（産業・人権環境常任委員会の部） 会議録

日時 令和4年9月4日（日）午前10時開会

主催 宇治市議会

オンライン（ZOOM）開催

1. 開会

■服部 正 広報委員会委員長（以下「司会」）

おはようございます。

本日はお忙しい中、第7回市民と議会のつどいに御参加いただきまして誠にありがとうございます。私は、宇治市議会で広報委員長を務めさせていただいております服部でございます。

まず初めに、今回の市民と議会のつどいに関して、準備運営を担っております広報委員会の私から簡単な説明を申し上げます。

市民と議会のつどいは平成30年に第6回を行って以降、コロナ禍で開催を見送ってきたという経緯がありました。しかし、これ以上市民の皆様の貴重な御意見を伺う機会を先送りにしてはならないと、コロナ禍でも確実にできる方法を議員全員で相談し模索をした中、今回、新しい形ではありますが、試行的にオンラインでの開催を実施することとなりました。

本日は、各常任委員会がテーマに関する関係団体や個人の皆様と意見交換をいたします。初めての試みですのでオンラインの参加者は人数を限らせていただきましたが、広く市民の皆様のお声をお聞きするという趣旨で、事前に今回のテーマに関しての意見募集を行いました。こちらの意見につきましては、後日ホームページなどで紹介をしたいと考えております。

また、本日はこのオンラインでの意見交換の模様を市民に御覧いただけるよう、パブリックビューイングの会場を御用意しております。パブリックビューイングの会場におられる方は、オンラインの意見交換には参加していただけません。アンケート用紙をご用意しておりますので、後ほどそちらに御意見、御感想を記載していただければありがたく存じます。

進行につきましては次第のほうを御参照いただきたいと思います。幾つかの注意点がございます。

1つ目は、市民参加の発言のお時間をお一人4分程度とさせていただき、お時間が近づきましたら委員長よりお知らせいたしますので、よろしく願いをいたします。

2つ目には、Z o o mのお取扱いでございますが、発言される方以外はミュートにさせていただき、発言される方のみミュートを解除していただき、発言をしていただきたいと思います。また、画面には常にお顔が映るよう、ビデオのボタンをオンにさせていただくようお願いをいたします。委員長より指名された方以外の発言のときには挙手をしていただきたいと思います。その際には画面に見えるように、お顔の近くで挙手をしていただくようお願いをいたします。

本日は運営上、何かと不行き届きの点もあるかと思いますが、何とぞスムーズな進行に御協力いただきますようお願いを申し上げます。

また、記録のため、写真及びビデオ撮影を行いますので、御了承いただきますようお願いをいたします。

それでは、開会に当たりまして、宇治市議会議長堀明人より御挨拶を申し上げます。

2. 議長挨拶

■堀 明人 議長

おはようございます。ただいま御紹介をいただきました宇治市議会議長の堀でございます。

本日は、第7回市民と議会のつどいに御参加をいただきましたこと、心より御礼を申し上げます。開催に際しまして、議会を代表して一言御挨拶を申し上げたいと存じます。

皆様におかれましては、平素より宇治市議会の活動に格段の御高配、御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、宇治市議会では、市民の皆さんの御意向を的確に反映し、市民に開かれ、そして信頼される宇治市議会を築くため、そして、市民福祉の向上及び市政の発展に貢献をするため、宇治市議会基本条例を制定いたしました。その条例の趣旨にのっとり、宇治市議会の活動を知っていただき、議員が市民の皆様と意見交換をさせていただく場として、この市民と議会のつどいを開催しております。

今回は、コロナ禍でも確実に開催ができるよう、初めてのオンラインでの開催といたし

ましたが、これまで以上に皆様から内容の濃い御意見をお伺いできるのではと期待をしているところでもございます。

今回の事業におきまして、皆様からいただきました御意見を基に、今後も宇治市の明るい未来を築くべく議論を重ね、市民に開かれ、そして、御信頼いただける宇治市議会を目指してまいりたいと考えております。

また、今回初めての手法となりますこのつどいの実施に当たりましては、先ほど御挨拶をいただきました服部広報委員長をはじめ広報委員会の皆様、また、議会事務局の皆様には御尽力をいただきましたこと、厚く御礼を申し上げます。

本日は、限られた時間ではございますが、このつどいが実り多いものとなりますことを心からお祈りし、開会の御挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。ありがとうございました。

■司会

議長、ありがとうございます。

それでは、ここからの進行は、産業・人権環境常任委員会の大河委員長にお願いをしたいと思います。よろしく願いいたします。

3. 意見交換

■進行 大河 直幸 産業・人権環境常任委員会委員長（以下「進行」）

皆さん、おはようございます。産業・人権環境常任委員会委員長の大河直幸でございます。

それでは、本日、意見交換を始めます前に、参加されている皆様を御紹介したいというふうに思います。

まず、市民の皆様から御紹介いたしますので、御紹介、お名前をこちらのほうで読み上げますので、お名前が上がりましたら、ちょっと手元で軽く手を上げていただきましたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。（紹介）

それでは、参加しております議会の産業・人権環境常任委員会の委員を御紹介したいというふうに思います。順番は順不同ですので、申し訳ございません。

まず、鈴木崇義議員でございます。坂本優子議員でございます。秋月新治議員でございます。関谷智子議員でございます。松峯茂議員でございます。本委員会の副委員長でござ

います岡本里美議員でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、意見交換を始めてまいりたいというふうに思います。

私どもの委員会では、テーマといたしまして「ウイズコロナの暮らしと産業」について意見交換をしていきたいというふうに思っております。

新型コロナの感染拡大は、市民生活、そして市内産業、観光などあらゆる分野で、新しい生活様式の広がりや価値観の変化など、大きな影響をもたらしております。

この間、市議会でも市内経済活性化に向けて、様々な支援策などについて議論を重ねてまいりました。今後も将来にわたって宇治市の産業や市民の皆さんの暮らしがしっかりと支えられる市政に向かって何が必要か、皆様と一緒に考えてまいりたいと思います。

それでは、今回御参加いただいております市民の皆さんからこのテーマに基づいて御意見をいただきたいと思っております。

なお、スケジュールの都合から、皆様の意見交換のお時間をお一人4分までとさせていただきます。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、発言者①様から御発言をどうぞよろしくお願いいたします。

■発言者①（宇治市農業委員会）

大変難しいテーマでありますのでなかなか話すことができませんけど、よろしくお願いいたします。

まず、宇治市にはいろんな農作物が栽培されているわけです。お茶、米をはじめ、京野菜、花、シイタケ、また畜産もあります。コロナ禍で外出が減って自宅待機が多いというので、消費が増えるかなと思っていたんですけども、逆に外食産業が振るわず、ずんずん消費が落ちているような状態であります。

また、私の本業は、茶業と米作りであります。御存じのとおり、米の消費が減って、農家はずっと減反を強いられておったわけでありましてけれども、それでもまだまだ余っている状態であります。京都府は全国でパン屋さんが物すごく多いということなんですけども、京都は和食の地域だと思ってるんですけども、複雑な気持ちであります。また、お茶でいえば、ペットボトルの氾濫で、急須で入れるお茶がなかなか飲めないのが現状であります。

宇治市のキャッチフレーズは、「茶と観光の宇治」です。しかしながら、コロナのために、観光客、インバウンドの客がほとんど皆無になっておりまして、宇治茶の消費がどんどん減少しているのが現状であります。先日、私、NHKの取材を受ける機会がありまし

て、「宇治市の人はあんまり宇治茶を飲まないらしいんですけど、なぜですか」というような質問を受けました。宇治茶イコール京都府産のお茶は、全国でたったの3%なんです。それなのに、関東へ行っても、また東北へ行っても、お茶といえば宇治茶と名前が通っているわけです。それはやっぱり京都は昔から公家文化、武家文化の中心で、大消費地であったこと、また、そのための先人の努力のおかげである。そして、今、茶業に携わっている人と、また、行政の力をたくさん入れていただいておりますので、その協力のおかげであると思っております。

それほど宇治茶はおいしい高級茶だということで、しかしながら、また、茶道とも絡まって、言えば、かえって敷居が高いイメージがあるのではないかなというふうに思うのであります。茶業界の方もいろいろ売れるアイデアを考えておりますけれども、逆によいアイデアがあれば教えてほしいなと思っておりますのでございます。

最後に、現在、宇治市の議員さんの中で、農業に従事しておられる方がほぼおられないというのが残念でなりません。議会のほうも農業振興をいろいろと考えていただいているとは思んですけども、食料自給率が38%と言われている現在、後継者不足、生産価格の低下、燃油・肥料などの生産資材の高騰によって、農業従事者の減少が止まらないわけでありまして。どうか今まで以上に、農業振興に御尽力いただきますようお願いいたします。以上です。

■ 進行

ありがとうございました。

続いて、発言者②様、よろしく申し上げます。

■ 発言者②（農業従事者）

皆様、おはようございます。よろしく申し上げます。

ウィズコロナということで、これから我々若手農家として、ちょっといろいろと御意見を述べさせていただきたいなというふうに思います。

まず、ウィズコロナなんですけども、私は共存ではなくて、対策を取りながらずっと農業活動を続けていって食料を提供し続けられるような環境を、今後必ず行っていないといけないなというふうに思っております。

先ほど発言者①様もおっしゃられましたが、自給率が38%という非常に低いものにな

っています。そこを我々宇治の農家として何か少しでも、たとえ0.1%でも上げれるような努力を我々農家としてはしていけないといけないというふうに思っております。

そこで、今までと同じような農業経営をしていけばいいのかと言われれば、コロナのせいでなんですけども、いろいろ考えさせられました。そして、コロナのせいでいろんなことを考えたおかげで、いろんな、対策ではないんですけども、考えの下、活動をこれからしていけないといけないなというふうに思っております。

まず、せっかく宇治、お茶も有名ですし観光地でもあります。ということは、コロナと共存しながら、共存といいますか、対策を取りながら共存して、農業についての魅力の発信を宇治市さんとか議員さんとかと一緒にできないものかというふうに考えております。

もちろん農業は、昨日も夜に急に雨が降ったり、作業がどんどん遅れたりしてしまうという現状ではございます。ということは、それを回避して安定したものを提供しようとするためにはどうしたらいいのかということ、野菜とかに関しましては、例えばビニールハウスが必要ですよとか、やっぱりそういったことでチャレンジをしながら前に進めていかないといけないというのが現状だと僕は思っております。

なので、そういったことで宇治市さん等と協力しながら、例えばビニールハウスを建てやすい環境を整備していただくであるとか、今までとはちょっと違った視点で考えていただければなというふうに思っております。

また、私が個人的に考えておりますのは、せっかく野菜、米等あるんですけども、食べるだけではなくて、例えばうちの息子が、うちの万願寺とうがらしがあるんですけども、その万願寺とうがらしを使って染物を今年、夏休みの宿題で作ってみました。例えばそういった形で新たな発展というのもこれからしていけないといけないかな、食べるだけではなくて、そこから捨てるようなものを次の新たな資産として残せるようにしていければなというふうに思っております。

これからインバウンド等々、復活してくるかなと思うんですけども、そういったことに対して、もう今から準備を整えていけないといけないなというふうに思っておりますので、どうぞ御協力や、一緒に並走していただいて考えていただければなと思っております。

以上です。

■進行

発言者②さん、ありがとうございました。

続きまして、発言者③様、どうぞよろしくお願ひいたします。

■ 発言者③（飲食事業者）

よろしくお願ひします。

コロナ禍において、うちは日本料理店ということで商売させていただいてますが、予想どおり相当な被害を受けて、今も全然元には回復していない状態が続いています。

ただそういう中で、私は手を止めずに、常に何かできないかというところで動いてきたわけですが、そういう中で一つ気づきがありまして、それは、まず、このコロナを乗り越えていこうとするときにどうすればいいのかと思ったときに、自分の店がまずどうではなくて、まちのために、まち全てが動き出したら勝手に自分の店も忙しくなるんですね。なので、私はどういう活動をしてきたかという、食育です。宇治のまちで食育をすることによって、子供たちの意識が変わります。しかも、大人になってからではなくて、子供のうちに食育をしっかりと理解していただくというのが非常に重要やということに至っています。それは、やはり子供の頃からしっかりと理解をしていただくと、大人になったときに、それがしっかりと反映されるような食生活、あと食環境をつくることができます。イコール、食生活をきちんとしてるということは、経済効果にも私はしっかりとつながってくると思っています。

特に宇治のまちというのは、お茶が一番に有名ですけれども、お茶の次に出てくるもの、発言者②さんのところのお野菜ですとか、いろんな実は食材があります。そういうのを子供たちにも知ってもらうというのは非常に重要かなと思っています。

少し違う話ですが、コロナ禍において宇治市さんのほうからもいろんなサポートというか補助を受けてきました。そういう中で一番リアルに、これはすばらしいなと思ったものが宇治市応援クーポンです。これは紙媒体ではなくて携帯一つでできるものでしたので、私たちの負担も少なく手間も少ない、そして、お客様もその場で使うことができるというので非常に有効やったと思います。なので、これから産業的に私たち飲食店が必要とするのは、応援クーポンのような形のものが一番今は求められているのかなと思います。

外食産業などの私たち飲食店がこれからしていかなければならないことというところで、食育の機会というのは私が個人的に頑張らせていただいているところなんですけれども、食育をしっかりと続けていくことができれば、子供たちはこのまま大人になりますし、そして、今の状況、子供たちが食を学ぶ環境というのを、今の状況を維持しながら、しっかりと

とこれからもつくっていただきたいと思います。やっぱりそういう場が宇治市でしっかりと考えていただけないと、なかなか子供たちはストレートに受けることができないと思っています。そして、食育をしっかりと学んで食生活の水準が上がって、そうすれば外食産業だけではなくて、宇治の観光のまちもしっかりと奥行きのできたものになると私は思っています。

そして、もう一つ言えば、先ほども言いましたが、お茶に続く何か代名詞的なものが今後のこの宇治のまちの未来に対してつくっていければ、それは最高の形やと思っています。やはり宇治はお茶がすごく全国的に有名ですが、それに続くものをつくっていく。それは食育の何かでもいいかと思えます。食材の野菜などの何かでもいいかと思えます。やはり後に続く代名詞というのをつくっていくというのが私は今、結構重要なのではないかなと考えています。

改めてキーポイントは、子供たちの食育というところは大きくあると考えています。

以上です。

■進行

ありがとうございました、発言者③さん。

続いて、発言者④さん、どうぞよろしくお願いいたします。

■発言者④（公益社団法人 宇治市観光協会）

皆さん、よろしくお願いいたします。

まず、観光の部分なんですけども、やはりコロナになってから、特にインバウンド、そして団体旅行等も含めて、緊急事態宣言が出たときとかはもうほとんど、国民も含めて人が動かない状態であったというようなところで、観光産業という部分は非常に厳しい状況でございます。

どちらかという現状のほうをお伝えしていくと、昨年度は緊急事態宣言が九十数日、延べで出てるということですが、非常に厳しい。その中で今年に入り、若干国のほうも移動が解除というような部分もできました。6月の修学旅行シーズンについては、コロナ前の大体6割から8割程度は修学旅行、遠足が戻ってきたかなというようなところ、そして海外からは、限定ではありますが、6月からは1日2万人というような形でお入りいただいているというようなところもありますが、特に団体専用の観光受入れの事業者さん、そし

て、インバウンド専用を主とした事業者さんというのは、もう非常に厳しい状態が続いているというようなところでは。

その中で、今、先ほど発言者②様、発言者③様もお伝えされたように、来られる方という部分についてはやはり宇治茶、自然風景、そして食というような部分というのが非常に旅の中で楽しめるアイテムの一つかなというようなところがございます。

そういう中で、非常に観光という部分については、一番初めにダメージを受けて、最後になって人が動き始めて戻っていくというようなシステムになっておるといようなところで、去年はG o T oキャンペーンとかいろいろありました。そのときだけはいつかよかったですけども、やはり今後の部分について、先ほど発言者③様もおっしゃったように、市民の、要は観光の事業者様も含めての消費につながるというようなところで、宇治市内向けのG o T oキャンペーンだったりとか応援クーポン、そういうようなものを活用させていただいて、皆さんで楽しく旅、もしくは、いつかはマイクロツーリズムというような言葉も出ましたが、近場でもやはり皆さんで助け合うというようなところが進んでいければなと思っております。

私どもも日々オンラインで海外の旅行者、そして国内の旅行会社とも話をしているんですけども、取りあえず国全体が受入れもしくは移動の解除がなければ、全ての経済が回らないというような形です。できるだけ早くに宇治市は、皆さん、お越しく下さいとしっかり言えるような、そういうような体制づくり、そういう部分については進めていければなというようなところで、お願いの一つでもございます。

以上が、現状も含めてですけども、観光、非常に厳しい現状が続いております。皆さん、議員の皆様、そして市民の皆様に関しましても御理解をいただければと思っております。

以上です。

■進行

発言者④さん、ありがとうございました。

それでは最後に、発言者⑤さんから御発言いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

■発言者⑤（子育て中の保護者）

おはようございます。夫と2歳と4歳の子供がいる4人家族です。よろしくお願いま

す。

コロナ禍が始まってから、子供たちはたくさんの我慢を強いられ、制限の多い中で生活してきました。それは今も続いています。例えばうちの子の通う園では、年長さんのお泊まり保育が延期になったり、つい最近も、楽しみにしていた夏祭りも延期になりました。その夏祭りもコロナ禍以前は子供たちを中心に職員、保護者も参加して、みんなでつくり楽しむものでしたが、コロナ禍では職員と子供だけでクラスごとに楽しむものに縮小されています。

下の子は生まれて数か月でコロナ禍の世界、大人たちはマスクをして、どこに行くにも消毒をして検温をしてというのが当たり前の世界になっています。長男は2歳でコロナ禍に。彼は電車やバスに乗るのが大好きでしたが、最初の緊急事態宣言が出た頃、どこにも行けず、乗り物にも乗れず、とても寂しそうでした。

コロナ禍の中、自身も感染リスクを抱えながら、日々子供たちに向き合ってくれている保育現場で働いてくださっている皆様には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。感染対策をしつつ、子供たちがどうすれば楽しめるか、今、子供たちに何が必要かを考え、子供たちと向き合ってくれているなど保護者として感じています。そのおかげで、我が子は保育園、先生が大好きです。

子供と向き合う仕事は、それぞれの月齢による心と体の発達を熟知していることは当然で、それに加えて障害やアレルギーなど、その子の特性に合わせた対応もしていくとても専門性の高い仕事だと思います。そして、何より子供の命を預かるとても責任の重い仕事だと思います。そんな保育現場で働く方たちが、精神的にも経済的にも体力的にも余裕を持って働き続けられるような環境を市として整えていってほしいなとも思っています。

また、学校現場でも、職員がコロナにかかり大変な状況になっているとお聞きしています。もともと学校現場では、教員の不足が全国的にも問題になっていたかと思います。ぎりぎりの人数で何とか回している状況の学校もあると聞いています。コロナ禍の中で、子供たちも様々な不安を抱えていると思います。そんな子供たちにきちんと向き合える状況が宇治市の学校現場にあるのでしょうか。学校現場で働く方たちの環境も、ぜひ市として整えていってほしいなとも思っています。

子供たちが我慢している間、保育現場、学校現場が大変な間、議員の皆様は一体何をしていたのだろうかというのが正直な私の思いです。3年もたつのに、まだ医療現場も保健所も逼迫している。コロナにかかっても入院できない、なかなか診てもらえない。なぜな

のでしょうか。これが、コロナが始まって半年程度ならまだ分かります。でも、もう3年たちました。医療現場、保健所の体制を整えることに、市民の命を守ることに予算を使ってほしいです。

また、保護者として、子供に関わる仕事をされている方が日々の業務で精いっぱいというのは、とても不安を感じます。もし議員の皆様が、宇治市が本当に子育てしやすいまちを目指しているのなら、子供を、子育て世代を大切に思っているのなら、保育現場、学校現場の働く環境を見直してほしいです。職員の数を増やすこと、施設設備を整えることに予算をつけてください。子供たちの育つ環境をよりよくしてください。よろしくお願いします。

■進行

発言者⑤さん、ありがとうございました。

皆様からの御意見いただきました。宇治市の将来に向けて、観光や農業、産業、そして子育てなどについての御意見をいただけたというふうに思います。

それでは、出席しております当委員会の委員から、一言ずつ御意見いただきまして、やり取りができればというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず鈴木議員からよろしくお願いいたします。

■鈴木 崇義 産業・人権環境常任委員会委員

鈴木崇義でございます。

今、コロナ禍での様々な皆様から貴重な意見をいただきまして、本当にありがとうございます。発言者⑤さんのお話をお聞きしまして、コロナという本当にこれまで誰も経験したことがないような中、保護者の方であれば御自身だけでなく、その子供たちにもウィズコロナへの新しい生活様式の対応を求められてるということで、本当に大変な面があるかと感じております。

今、感染拡大防止、そして、さらに活動をどう進めるか、これが非常に重要となっておりますし、先ほどの保育園の先生の支援などのお話がありましたが、府のほう、市のほう、そして国のほうが連携しまして、保育園の先生への支援を進めておりますので、やっぱり各園、それぞれ活用しながら先生も増やしているところです。

ただ、こういったことが保育園、保育園単位でなかなかやっていくというのは難しいこ

とでありますので、各園との連携、そして、さらに言うと保護者の方への情報提供、今、このネット社会の中で、携帯で様々な情報が出ています。その中ではやっぱり真偽が怪しいものであったりとか、そういった間違っものが拡散されてしまいますと、そういったものが一気に保護者の方の中でも、これどうなっているんだ、どうなっているんだ、そういう不安にもやっぱりつながってしまいますので、行政としては各園の連携、学校の連携、そういったものをしっかりと深め、先生方の活動しやすい、コロナの感染防止しやすい、そういう環境を整えていくということは非常に重要であると思っておりますし、保護者の方にもやっぱり迅速に、そして丁寧に情報提供していく必要があるのかなというふうに感じさせていただいております。

今日、様々な方のお話聞いた中で、やっぱり非常に支援というものは大切なんだけど、チャレンジできる環境、コロナで厳しい、だけど次につなげていく、そういったものをしていただきたいというようなお話、非常に重く受け止めましたので、本日、様々な分野の方からいただきました御意見、こういったものが実現できますように応えていきたいと思っておりますので、今後とも御支援よろしく願いいたします。ありがとうございました。

■進行

ありがとうございます。

続きまして、坂本議員、よろしく願いいたします。

■坂本 優子 産業・人権環境常任委員会委員

発言者②さんのお話聞いてて、今、気候危機とかウクライナの問題とか、いろんなことで食料が本当に不足してるということがありますが、だから、1%でも自給率を増やしていく、上げていくんだというふうにおっしゃっているのを物すごい心強く思っているんですけど、日本人に対しても、世界の人に対しても、やっぱり農業従事者として責任を持つてはるんやなということを非常に強く思いました。

それで一つだけ、もう一番望んではること、希望してはること、農業をやってて、これはやってほしいと思うことをお聞かせ願えたらと思います。よろしく願いします。

■進行

どうぞ、発言者②さん、お願いします。

■発言者②（農業従事者）

ありがとうございます。

これはやっていただきたいというのは、やはりこれから1%、0.1%でも自給率を上げるためには、人手不足というのが否めないです、どうしても。なので、ハローワークさんであったり、そういった求人はさせていただいてはいるのですが、やはり3Kというのがあるんですね、農業というのはイメージが。それを僕らは変えないといけないんですけども、そういったイメージを変えるために、例えば僕もこういう感じで、ちょっとスポーティーな感じで農作業をしたり、従業員さんとかにはそういった格好でもらってます。なので、人手不足、あとは後継者不足、ここに関して力を入れていただかないと、私が思っているような宇治市の農業形態というのは難しいと思います。

というのも、高齢化が進んでますので、一気に、例えば何百、何千平米というのを急にやってくれと言われても対応ができないわけですよ。なので、そういったことに対していろいろ御支援いただければありがたいと思いますし、ただお金を下さいではなくて、一緒に並走できる何かを共に考えていけたらなというふうに思っております。

以上です。

■進行

ありがとうございます。坂本委員、よろしいですか。

■坂本 優子 産業・人権環境常任委員会委員

はい。

■進行

ありがとうございます。

でしたら、続いて秋月委員のほうからお願いいたします。

■秋月 新治 産業・人権環境常任委員会委員

秋月新治でございます。よろしく申し上げます。

今日は大変貴重な時間が持てたんじゃないかと思っております。今までこのようにいろんな問題をいろんな方面の方から直接お聞きするということがなかなかない。ところが、このZoomによって、自宅からでも、また、いろんな方からいろんな意見を持ち込みやすくなったと考えております。

次の段階としては、この持ち込まれた問題をそのまま放置せずに、じゃ、本市でどんなことができるのか、こういった提案を当局側、あるいは本市のほう、あるいは議員のほうからそういうことに対して、何らかの回答であったり方向を示す必要があると思います。

また、それに対して市民の皆様から、じゃ、こんな対策を考えてるんだと。こういう議論の応酬ですね、こういったことによってどんどんと先へ進めていかないといけないと思います。

本日はこういうZoomによってみんなが会議に参加できる、こういう環境づくりは大変素晴らしいことだなと、今、つくづく感じております。

あと、これからも皆様の忌憚のない御意見をよろしく願います。一生懸命みんなで考えていきたいと考えております。よろしく願います。

以上です。

■進行

続きまして、関谷委員のほうからお願いいたします。

■関谷 智子 産業・人権環境常任委員会委員

今日は貴重な御意見等、ありがとうございました。

私は、発言者①様が一番先におっしゃってございまして、たまたま先週末のニュースを見ておりますと発言者①様が出ておられまして、そこで重油が非常に高騰していると、茶葉を乾かすための重油が倍の値段になって大変なんだということをおっしゃってございまして、もうこの時期にはじっと耐え忍んでいくしかないんだというふうなお話をされておりました。

よく発言者①様が、先ほどペットボトルのお茶のほうが普及をしているというふうなお話で、やはりうちを考えましても、急須で頂くお茶とペットボトルと併用してるかなというのが実態でございまして、よく発言者①様が、ペットボトルは喉を潤す、急須で頂くお茶は心を潤すんだと名言をおっしゃるわけですけれども、しっかり、やっぱり宇治のお茶

を大事にしていきたいなというふうに私も思いました。

宇治市でも6月の補正予算の中で、コロナ感染症、また原油価格、物価高騰に対する補正予算が組まれました中に、一般家庭においては水道料金の基本料金の減免でありますとか、そういうことがありますけれども、事業者さんに対しても、肥料代も非常に高騰しているというようなことから、僅かな金額でありましたけれども、肥料の購入に対しての、少しの補助ではございましたが、そういうことも宇治市としてされておりました。

また、発言者②様のお話の中で、私は、やはり若い方が今後未来を担っていただく方で、非常に希望を感じましたし未来性を感じました。やはりまだまだ農業従事者のお宅でない方の一般の若い方が就農しやすい環境とか、もっと宇治市としてPRできることはないのかなと、その辺のことはやはり市として努力していくところではないかなというふうに思いました。

発言者③様のお話の中に、宇治市応援クーポンが非常によかったんだというお話もありました。これは市民としても本当に喜んでいただいたことかなというふうにも思いますし、私もこれを利用していただいて食事をさせていただきました。

あと観光のところで、発言者④様のお話の中で、大変厳しい状況であると、もう本当に御苦労されていることがよくよく分かりましたし、私たちも実感をしております。今後のことですが、宇治には観光の資源というのはいっぱいあるかと思えますし、また、さらには今後のNHKの大河ドラマ、これも予定されているようですので、こういった機会を大きなチャンスにして観光事業を展開していただけたらありがたいなというふうなことを思っております。

発言者⑤様のお話にありましたように、子供さんへの大きな影響というのは非常に今後大変かなというふうに思えますし、その辺を本当にきめ細やかな何か施策の展開ができたらいいなというふうに思っております。

以上でございます。

■進行

続きまして、松峯委員のほうからお願いいたします。

■松峯 茂 産業・人権環境常任委員会委員

皆さん、大変御苦労さまでございました。松峯でございます。

本当に今日はお忙しい中、御参加を賜りましてありがとうございます。また、皆様からは貴重なコロナ禍における現状、そして御意見を賜りまして、本当にありがたいと思っています。

まず、発言者①様からありました農業委員会、そしてまた農業について、議員のほうは勉強不足じゃないかという御意見やったと思います。そんな中でも、以前は農業委員会の中に議員のほうからも2名選出をいただいて、農業に関するいろんなことを勉強させていただいてきたんですが、なかなかそういった機会がこの頃ないということも現状の中で一つあるかなと思いますので、また議会のほうも、今、貴重な御意見いただきましたので、何とか農業委員会の皆様方と連携を深められるような体制づくりが必要でないかなというふうに思いますので、ひとつまたそういう議論もさせていただきたいなというふうに思います。

それと、観光で大変苦勞をいただいているということもありますし、また、農業も、そしてまた食文化についても大変貴重な御意見をいただきました。

観光のほうで、やはり天ヶ瀬ダムの方も工事がぼちぼちと終了に近づいてまいりますし、また、新しい観光のツールとして、かわまちづくりがスタートするようにもお聞きをしております。そういった、また新しいツールも御期待をいただきながら、一人でも多くの皆さんが宇治へ観光に来ていただけるように、私たちが微力ではございますけれども、全力を尽くしてまいりますというふうに思っています。

また、これから宇治市の将来を皆さん方とより多く議論をさせていただくというふうに思っておりますし、宇治市議会のほうも4常任委員会、7人ずつ入っております、28人が各宇治市内に均等よく配置をしていただいておりますので、御意見、御要望ありましたら議員をつかまえていただいて、また宇治市がよりよい方向に進めるように貴重な御意見をいただきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

■進行

それでは、最後に岡本副委員長のほうからお願いいたします。

■岡本 里美 産業・人権環境常任委員会副委員長

岡本です。本日はお忙しい中、御参加をいただきまして、ありがとうございました。

各分野で御活躍されている皆様から、本当に活発な御意見を今回は頂戴できましたこと、我々委員といたしましても、今後考えていかなければならない課題が見えてまいりましたので、本当に貴重なお時間をありがとうございました。

発言者③さんおっしゃっておられました応援クーポン、先ほど関谷委員からもありましたように、やはり利用される方がすごくメリットがあるということで、喜んでおられるお声は私もよく聞いておりましたが、今、お店のほうでも扱いがしやすかったというのをお聞きしましたので、御協力いただいているお店のほうからもそういった声を聞かせてもらおうと、お互いに本当によかったのだなというのを感じました。

また、そういったことに関しましては、私たち役所のほうでそういったクーポンという提案をさせていただきながら、御協力いただける各種団体の方がいないことには進まないことですので、また今後ともそういった取組に関しましては、皆様に御協力をいただきながら進めていかなければならないことですので、今後ともお世話になることもたくさんあるかと思いますが、よろしく願いいたします。

やはり自分の店だけではなく、まち全てが動くよという言葉と、キーポイントに子供たちの食育ということをおっしゃっておられました。発言者③さんのほうで学校に出向いて食育をされていることも、私も地方紙でありましたりとか、そのことはよく存じ上げておりますけれども、そういったことに関しましては、やはり教育の場であります学校と、そういった今地域で活動されている方が出向いて授業をしていただく、農家の発言者②さんのほうもそういった形で出向いていただく、そういった関係も、やはり御協力あつてのことだと思っておりますので、今後ともまたよろしく願いいたします。

本当に宇治市、お茶でありましたり観光でありましたり、皆様に支えていただいているところが多くあると思えますし、それを全て、やっぱり市民参画、協働、そのことを考えながらこれからも委員会で議論させていただき、そして、宇治市議会の中でも議論させていただけたらと思えます。

発言者⑤さん、私の子供はもう高校生と二十歳と大きくなった息子なんですけれども、本当に小さなうちの一年、二年という成長はもう大切な時期だと思えますし、うちの子、高校生で今文化祭、いろいろ準備をしておりますけれども、なかなか保護者は家族の中でも1名だけが子供の文化祭へ来てくださいということで、たくさんも行けませんし、しかも自分のクラスの発表のときだけで、あとはもうほかの発表は見れませんという制限がある中ではありますが、少しずつでもそういった形で子供たちが今頑張っていることもやっぱり

応援もしていかなければならないと思いますので、また皆さんの御意見を頂戴したいと思います。本日はありがとうございました。

■進行

各委員の皆さんから御意見をいただきました。

若干時間がありますので、市民の皆さんから、もし追加の発言がありましたら一、二分でまとめていただければと思うんですが、御発言をされたいという方、いらっしゃいましたら挙手いただいてもよろしいでしょうか。いかがでしょうか。ぜひ積極的に、せっかくの機会です。

でしたら発言者②さん、よろしくをお願いします。

■発言者②（農業従事者）

まず、僕も子供なんですけども、おるんですが、めちゃくちゃ、確かに我慢をずっとさせてしまってるなというのがありまして、例えばなんですけども、屋外で対策を講じながら農業の例えば体験であるとか、そういった場の提供というのを整えられるように我々も準備していけたらなというふうにも思ってます。なので、そういった屋外でディスタンスを取れるような環境づくりというのは農業ではできるかなと思いますし、それこそ私も食育というのは非常に興味もあるもので実際にさせていっているんですけども、そういった形で市民の方々と一緒に、ここの農園さんがあるんだというのも知ってもらい意味合いで、何かお手伝いできることがないかなというふうに今思ってます。そういうのは遠慮なく、こんな御意見があります、何かできませんかというのを一緒に考えもって何かしていけたら、子供たちの未来のためにもいいかなというふうに思いましたので、また何かあれば、いろいろ一緒に考えていきましょう。よろしくをお願いします。

■進行

ほか、いかがでしょうか。発言者③さん、どうぞ。

■発言者③（飲食事業者）

失礼します。先ほどちょっと言い忘れたんですけども、私、やはり食の話になるんですが、うちのお店のスタイルを考えると、日常ではなくて非日常的な、特別なときに御利

用いただくお店というスタンスでやっております。なので、先ほどまち全体がと申し上げたのは、まさに毎日食べるような、例えばおうどんとか定食屋さんとか、そういうお店がにぎわうことによって、たまに行く外食というのが私たちのようなお店になったり、特別なおもてなしを受ける機会というのが増えてくると考えています。

なので、毎日ただ食べるだけの食ではなくて、私がよく口にする言葉が、伝統的な食文化というのがあります。なので、宇治市で活動を行うときは、食文化的な食というイメージと、あとは食環境を整えるというか食を盛り上げていくという食、この2つを少し分類して考えていただけると、なおさらストレートに宇治市のまちに刺さっていくのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

■進行

せっかくですので、でしたら残りの3人、御発言いただければと思います。

発言者①さん、いかがでしょうか。よろしくお願いいたします。

■発言者①（宇治市農業委員会）

今、宇治市の小学校の蛇口をひねればお茶が出るという施設をこしらえていただけてますね。これ、私、全国の役員してても、それはもう全国的にも有名です。「宇治市、水道ひねったらお茶が出るんやな」と。私は、コーラや牛乳で育った子供が「大きくなったらお茶飲むわい」というのは、それは茶業者のエゴやと、勝手に思ってるだけやと思う。牛乳やコーラで大きくなった人が二十歳なって、30になって、40になって、飲むわけがない。ですから、小さいときからお茶を飲むくせをつけなあかんというので、我々茶業界が一体となって、小学校にいろんな、飲むくせをつけたりするようなイベントなり行事なんかしてもらってるんですけども、そういう小さいときから飲むくせをつけるような、そういう施設は具体的に、じゃ、どうすればいいんやと、なかなか難しいですけども、みんな考えていただいて、そういうような飲める雰囲気をもみんな寄ってつくっていただいたらありがたいと思います。

昔、お茶の作文コンクールというのを小学生で全国的に茶業界でしたことがあるんです。ところが全国的にすると、なかなか経費なりが要って長続きしませんでしたけど、やっぱりそういうこととか、いろんな小さいときから飲むくせをつけるような施策をみんな寄って考えていただければありがたいかなと思っております。以上です。

■進行

でしたら、発言者④さんも一言よろしくお願いいたします。

■発言者④（公益社団法人 宇治市観光協会）

ありがとうございます。

観光、コロナのこの間、実は自然とともに楽しめる地域、観光地というところは結構にぎわったというような形です。キャンプ場であったりとか、要は海辺で遊ぶ、そういった部分。宇治の場合は宇治川というようなところがあります。

先ほど松峯議員さんもおっしゃったように、天ヶ瀬ダムを利用した観光地の進め方であったりとかかわまち計画、そういう中で、宇治市の中でも自然と触れ合えるというようなことがこれから進んでいければなと感じております。

また、昨年オープンした京阪宇治駅横の歴史公園「茶づな」、こちらのほうで月に1度、今、マルシェであったりとか、いろいろなイベントをされております。その中で、先ほど発言者②さんおっしゃったように、宇治産の市民向けの朝市であったりとか、宇治の特産の市場が月に1度でもできて、お茶も含めて、市民の人がまず地産地消というような形で盛り上げていくものも一つかなと。観光の部分では、やはり遠方からお越しいただくというような形もありますが、まず市民が理解して、市民の人たちが「宇治へお越しく下さい」と誰もがおっしゃっていただけるような、そういうようなまちになればなと感じております。以上です。

■進行

ありがとうございます。

でしたら、最後、発言者⑤さん、一言お願いいたします。

■発言者⑤（子育て中の保護者）

何か先ほど食育の話が出てたので、そのことに関してしゃべりたいんですけど、うちの子も保育園の給食が大好きで、「おいしいものしか出ない」って言ってて大好きやし、給食先生のことすごい大好きで、そんな中で今日お話伺って、発言者②さんとか発言者①さんとか、宇治でお野菜、お米、作ってらっしゃる方、たくさん、たくさんというか使っ

てらっしゃるということなので、何かそういう宇治で作られたお野菜だったり、畜産もあるということなので、そういうものを保育園だったり小学校だったり、これから始まる中学校給食だったりで使っていってもらえたらいいんじゃないかなととても思ったし、何かたまたま発言者②さんとこの農場に行ってみるとか、給食で使ってるお野菜はここで取れるよとか、そういうお話とか、実際に宇治市で作ってるものなら遠足で行ったりとかもできるし、何かいいなってすごい思ったので、何かやってほしいなって。

食育というものを本当に大事に思ってるなら、何かもっと宇治産のものを使ってほしいなと思ったし、食育というので、本当に作ってる人の顔が見えるって子供にとって本当に大事だと私は思っていて、例えばうちの家庭内では、私が作ったら子供たちは「お母さん、作ってくれてありがとう」とか言ったり、ちょっとおいしくないけど、お母さん作ったしとか言ったらちょっと頑張って食べてくれたりもするし、それは保育園でもやっぱりあるみたいなので、やっぱり食べるということに関して、料理を作ってる人とその食材を作ってる人との関わりって、子供にとって本当にすごく大事なんだなって子育てしてて感じるもので、そのことをもうちょっと市としても大事にしてほしいなってとても思いました。よろしくをお願いします。

■進行

皆さん、ありがとうございました。

そろそろお時間ですので、これで意見交換を終了したいというふうに思います。大変重要な意見交換ができて、様々なアイデアも種として出てきたのかなというふうに思います。

いただきました御意見を基に今後も、まだまだ足りない部分はありますが、委員会としても議論を重ねてまいりたいというふうに思います。

それでは、最後に広報委員会副委員長の西川康史副委員長のほうから閉会の御挨拶をさせていただきます。

4. 閉会挨拶

■西川 康史 広報委員会副委員長

広報委員会副委員長の西川康史でございます。

本日御参加いただきました市民の皆様、お疲れさまでございました。ありがとうございます

ました。

本日の内容は、後日ホームページなどで御報告させていただきます。

また、パブリックビューイングで御参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。よろしければアンケートへの御協力をお願いいたします。お帰りの際は、お気をつけてお帰りください。

以上をもちまして、第7回市民と議会のつどい、産業・人権環境常任委員会の部を終了いたします。

Z o o m参加の皆様、どうぞ御退室ください。ありがとうございました。